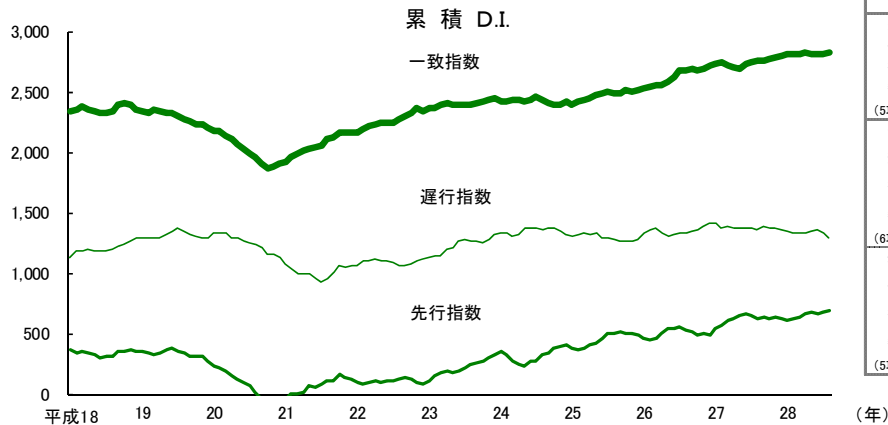


1. 景気動向指数

平成 29 年 1 月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、百貨店・スーパー販売額(実質)、輸入通関実績(実質)、雇用保険受給者実人数(逆)の 4 項目がプラスとなり、全体では 66.7%と 2 カ月連続で保合となった後、50.0%を上回った(6 項目のうちプラス 4、マイナス 2)。

先行指数は、新規求人数(パート含む)、新車登録台数(乗用車)、鉱工業在庫率指数(逆)の 3 項目がプラスとなり、全体では 60.0%と 2 カ月連続で 50.0%を上回った(5 項目のうちプラス 3、マイナス 2)。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、家計消費支出(勤労者世帯)、資本財出荷指数、貸出約定平均金利の 4 項目がマイナスとなり、全体では 20.0%と 2 カ月連続で 50.0%を下回った(5 項目のうちプラス 1、マイナス 4)。



採用景気指標	
先行指数	1. 新規求人数(パート含む)
	2. 新車登録台数(乗用車)
	3. 鉱工業在庫率指数(逆)
	4. 新設住宅着工戸数
(5項目)	5. ホテル・旅館宿泊客数
一致指数	1. 有効求人倍率
	2. 百貨店・スーパー販売額(実質)
	3. 鉱工業生産指数
	4. 鉱工業出荷指数
	5. 輸入通関実績(実質)
(6項目)	6. 雇用保険受給者実人数(逆)
遅行指数	1. 鉱工業在庫指数
	2. 家計消費支出(勤労者世帯)
	3. 消費者物価指数 (持家の帰属家賃を除く総合)
	4. 資本財出荷指数
(5項目)	5. 貸出約定平均金利

注) 今月の累積DI = 前月の累積DI + (今月のDI - 50)
 一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。
 資料) 宮崎県県民政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

12 月の鉱工業生産指数は、102.1 で前年同月比 0.1%増と 2 カ月ぶりに前年を上回った。

主要業種別にみると、電子部品・デバイス(同 10.3%減)が前年を下回ったものの、食料品(同 2.0%増)、化学(同 14.9%増)、繊維(同 6.3%増)が前年を上回った。

3. 建設関連

① 公共工事

3 月の公共工事請負金額は、123 億 4,000 万円で前年同月比 18.8%減と 2 カ月ぶりに前年を下回った。

発注者別にみると、国が同 51.7%減、県が同 63.4%増、市町村が同 57.2%減、その他(独立行政法人等)が全減となった。

② 着工建築物

2 月の着工建築物は、棟数 479 棟で前年同月比 10.1%増、床面積は 8 万 2,445 ㎡で同 14.5%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数同 9.7%増、床面積同 8.3%増となり、非居住用は棟数同 11.6%増、床面積同 29.6%増となった。

非居住用の床面積を用途別にみると、鉱工業用同 6.1%減、商業用同 38.4%減、サービス業用同 45.2%減となった。

③ 住宅着工

2月の新設住宅着工戸数は、616戸で前年同月比6.2%増となった。

利用関係別にみると、持家は同8.6%増、貸家は同3.8%減、分譲は同24.5%増（マンションは前年70戸→本年77戸、一戸建てが同40戸→60戸）となった。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

2月の百貨店・スーパー販売額は、51億7,400万円で前年同月比0.3%減と2カ月ぶりに前年を下回った。

商品別では、衣料品は9億8,000万円で同7.1%減、飲食料品は28億2,800万円で同2.1%減、その他計は13億6,600万円で同9.7%増となった。

② 乗用車新車販売動向

1月の乗用車新車登録台数は、1,861台で前年同月比14.2%増と3カ月連続で前年を上回った。

車種別にみると、普通車は897台で同7.7%増、小型車は964台で同21.1%増となった。

5. 空港乗降客数

12月の宮崎空港乗降客数は、26万7,952人で前年同月比5.6%増と3カ月連続で前年を上回った。

乗客数は12万3,041人（前年11万6,450人）と増加し、降客数も14万4,911人（前年13万7,286人）と増加した。

6. 消費者物価指数

2月の宮崎市の消費者物価指数は、100.8で前年同月比1.2%上昇した。

これを費目別にみると、家事・家具用品（同3.5%増）、食料（同2.2%増）、教育（同1.7%増）など9費目が上昇した。

7. 企業倒産

3月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は2件で前年同月比100.0%増と2カ月連続で前年を上回った。負債総額は3億7,800万円で同89.0%増と3カ月連続で前年を上回った。

業種別では、農・林・漁・鉱業2件となっている。

8. 雇用情勢

2月の有効求人倍率は、1.33倍で前月と同水準だった。

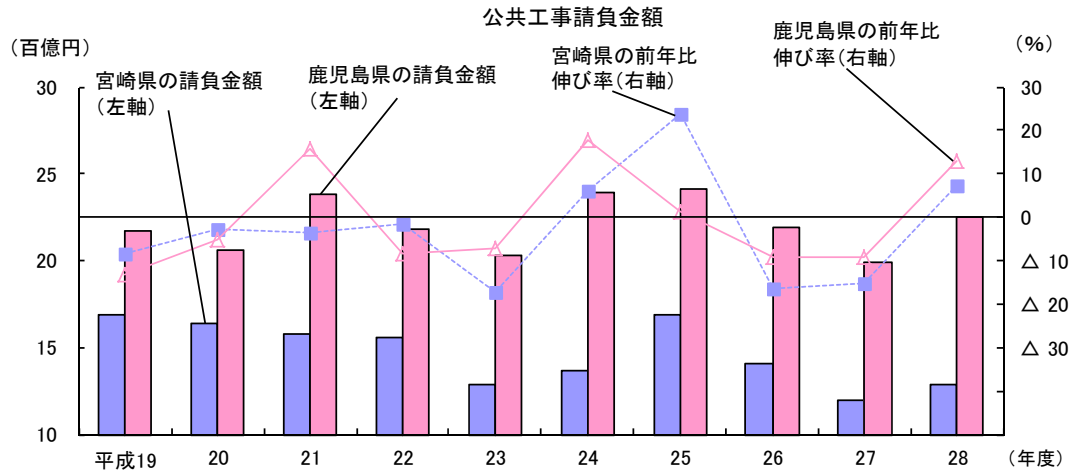
新規求人数は、10,674人で前年同月比12.3%増となった。

サービス業(他に分類されないもの)は56.7%増、卸売業、小売業は16.7%増、医療・福祉は5.7%増など11産業が増加となった一方で、情報通信業は36.9%減、学術研究、専門・技術サービス業は22.1%減、鉱業、採石業、砂利採取業は62.5%減など7産業が減少した。

雇用保険受給者数は、3,956人で同7.5%減と57カ月連続で前年同月を下回った。

〈今月のトピックス〉～ 平成 28 年度の公共工事請負金額

西日本建設業保証によると、平成 28 年度の宮崎県の公共工事請負金額は 1,282 億円（前年度比 7.4%増）と、3 年ぶりに増加した。発注者別にみると、国 287 億円（同 13.7%減）、県 484 億円（同 38.0%増）、市町村 459 億円（同 2.7%増）、独立行政法人等・その他 51 億円（同 17.8%減）となっている。



資料)西日本建設業保証